

令和 8 年 第 2 回 定 例 会 総 体 質 問 通 告 事 項

	<p>村 井 温 子 議 員 (潮 風 お の み ち)</p>	<p>質 問 方 式 : 一 括 質 問 方 式</p>
<p>3</p>	<p>1 「こどもまんなか尾道」実現に向けた本市の認識と方向性について こどもの数が減少しているにも関わらず、こどもの自殺、不登校、いじめの増加という社会状況を本市としてどのように受け止め、その課題の本質をどこにあると認識しているのか。 「こどもまんなか尾道」を掲げるにあたり、こども・若者を政策の主体として位置付け、市政の意思決定過程にその意見を継続的かつ実効性をもって反映させる仕組みをどのように構築していくのか。 また、子育て分野にとどまらず、市政全体におけるこども・若者参画の制度設計の方向性について問う</p>	
<p>月</p>	<p>2 子育て環境整備について 屋内こども広場整備事業について、尾道駅前開発ビル地下1階への整備および東尾道子育て支援センター等の拡充を含め、本市として当該施設を都市計画上どのように位置付けているのか。 山間部・島しょ部を含む地域バランスの観点から、その必要性をどのように認識し、将来的に他地域へ展開していく考えはあるのか。</p>	
<p>4</p>	<p>乳幼児期に限らず、中高生等の若者の居場所となるユースセンター整備の必要性の認識および、検討状況について問う</p>	
<p>日</p>	<p>3 教育分野について (1) 主体性を育む教育の位置付けについて 学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、本市として主体性を育む教育を明確な軸として推進していくのか。その基本認識について問う (2) 多様な学びの位置付けについて 校内外教育支援センター、フリースクール支援、デュアルスクール、夜間中学、小規模特認校、学びの多様化学校等を、補完的施策と捉えるのか、それとも教育の基盤として位置付け、本市教育の再設計を図るのか。市の見解を問う (3) フリースクール利用者支援について 保護者支援制度の実施時期の見通し、制度設計のスケジュールおよび当事者・現場の意見反映の方法について問う</p>	

3	<p>(4) デュアルスクールの制度設計について</p> <p>ア 本市として重視する効果および、対象校、実施期間、制度枠組み等の具体的設計の考え方について問う。</p> <p>イ デュアルスクールの発展的展開として、市内の地域間で一定期間通学する 「市内間留学制度」の導入可能性について、市の見解を問う</p> <p>(5) 教育環境および教職員の働く環境整備について 学校の通信インフラ整備の課題認識および改善計画について問う。あわせて、教育DXを手段として位置付けつつ、体験活動や対面教育とのバランスをどのように確保していくのか、その基本的考え方を問う</p>
月	<p>4 学校給食について 小学校給食無償化の実施について、その政策的意義および判断に至った背景と基本的考え方を問う。あわせて、今後物価高騰が継続した場合においても、献立内容・栄養基準・地産地消の取組を含む給食の質と量を維持するための財政見直しおよび検証の仕組み、さらに学校給食を子どもの成長を支える公共政策として一次産業との連携も含めどのような長期的ビジョンのもとで位置付けていくのか、本市の基本姿勢を問う</p>
4 日	<p>5 しまなみの特性を最大限発揮する一次産業の推進について</p> <p>(1) 農業施策について 農業機械の価格上昇や修繕費負担の増加を踏まえ、農機具購入補助および修繕支援の現状と、持続可能な農業経営を支える観点からの制度拡充や新たな仕組み創設の検討状況について問う。あわせて、地場産農産物の域内循環や学校給食との接続を含めた本市農業の将来像について問う</p> <p>(2) 漁業施策について アマモ再生事業や種苗放流等の栽培漁業の効果検証の方法および今後の重点分野について問う。あわせて、資源管理と収益性向上を両立させる戦略について問う</p> <p>(3) 農業と漁業をつなぐ戦略について 未利用水産資源の堆肥化など、農業と漁業を横断する「しまなみ循環型モデル」の制度化・事業化の可能性および、県との連携も含めた横断的戦略構築の意思について問う</p>

<p>3 月 4 日</p>	<p>6 病院事業について 令和7年度当初予算において新病院建設関連予算の計上が見送られ、令和8年度に向けては経営基盤強化に取り組むとの説明がなされているが、新病院建設計画の現在の位置付けについて問う。あわせて、事業再開を判断する場合の具体的な経営指標や条件（単年度収支、累積欠損、基準外繰入の在り方等）について、市としてどのような客観的判断基準を整理しているのか問う</p> <p>以上の各分野について、しまなみという本市の特性を活かし、子どもを中心に据えた持続可能なまちづくりの観点から、市としてどのような方向性と判断基準のもとで施策を進めていくのか、その基本的な考え方を問う</p>
---------------------------------	---